

尾山の城主と成り入城の後城繩を改め、西町口を正門となしたれど、同十一年盛政また滅亡し、舊藩祖利家卿盛政が遺領を賜はり、入城の後正門を改めて、尾坂口を正門とし給ひたりとあり。今按ずるに、尾坂口を正門とせしは、本源寺在城以來なるを、佐久間入城の後西町口を正門としたり。然るを利家卿に至り、再び尾坂口を大手となし、正門をば此に建てられたるものなり。されば尾坂口を大手先とするは、府城創立以來の事なるべければ、大手の名は本源寺在城以來よりの古名といふべし。

○尾坂下

或は小坂下とも書けり。或は小坂口とも呼び、また尾坂の下とも呼べり。皆大手先をいへり。舊傳に云ふ。河北郡の小坂村はヲサカと呼び、昔は府城の大手先・尾張町邊に村落ありて、小坂神社も中町紙屋庄三郎の邸地にあり。故に府城の大手先をば小坂口と呼べり。然るを城下市中追々建て廣げられけるにより、村落も神社も下筋大樋口の今の地へ追ひ出し、元の村跡は町地となし、町家を建てしめらるといへり。按ずるに、片岡孫兵衛傳記に、天正十一年尾坂

の下に邸地を賜はるとて、前口八間裏行十間餘の家有之、家内に茶釜一つ有之を其の儘拜領仰付らる。右邸地は今津田支蕃の第内なりといへり。又山岸半助家記にも、利家卿御入部の砌、尾坂下中町に邸地を賜はり、寛永十三年町替の時今の地へ移轉被仰付とあり。さて尾坂の名は尾山坂の略稱なりといふ説あれど非也。尾坂は小坂なりと三州志にいへり。今按ずるに、延寶の金澤圖に、府城尾坂門前の坂路を尾坂と記載す。尾坂は小坂にて、此の坂をば小坂と呼べるにより、此の下邊を小坂下、或は尾坂の下とも、又小坂口とも呼びたるもの也。

○尾坂下古寺町

舊傳に云ふ。昔本源寺城中にありし頃は、尾坂下邊に下道場共多く集まり居り、佐久間入城後も其の儘にて、天正十一年利家卿入部し給ひし後、越前府中等より來れる出家共にも寺地を尾坂下邊にて賜はり、追々寺院多に成り、此の地を寺町と呼びたりといへり。按ずるに、三壺記に、慶長七年金澤城内天守に雷落ち、焰硝藏へ火入りける時、前田美作屋敷の外なる西方寺の屋根へ、長刀持ちながらはね

付けられ死する者もありと見たる西方寺も、尾坂下の寺町なる寺院なるべし。貞享二年寺院來歴に載せたる卯辰妙泰寺、泉野寺町妙法寺・本性寺などの由來書に、枯木町に寺地拜領せし由記載する枯木町は、即ち尾坂下なる寺町の事にて、今云ふ枯木橋は其の町筋に架けたる橋なりと聞ゆ。又元祿十四年に筆記せし越前屋賢良が自記に、高德公

也。此の時町中惣構之外へ屋敷替、町割立替ると云ふ。但し右寺町は今の古寺町とあり。按ずるに、今の古寺町とは犀川の今云ふ古寺町と心得たるものにて、甚だ誤れりといふべし。右寺町は尾坂下の寺町なるゆゑに、尾張町・新町の續きに載せたるにてもいちじるし。

○大手町

越前府中より先祖空遍を被召連、當地寺町に居屋敷を被下。瑞龍公の御代に寺町にて家作仕時分、御覽可被成由にて御鷹野歸りに御腰被爲懸と載せたる寺町は、即ち尾坂下の地なり。同記に、微妙公の御代御坂の下居屋敷御用地に被召上、袋町に替地被下とあり。御坂の下とは尾坂下をいへり。又三壺記に、寛永十二年五月九日河原町の後より出火し、才川口河原町・堅町筋・南町・石浦町・堤町・尾張町・新町・中町・寺町等悉く焼失す。其の時町中を惣構の外へ屋敷替仰付けられ、町割調ふと見え、變異記にも、寛永十九

此の地は、舊名大手先と稱し、或は尾坂下とも呼びて、往古は町家なりしかど、寛永十二年に町家を退去せしめ、大身の諸士共へ第地に賜はり、各第宅を美々敷造り居たりしかど、明治廢藩の後各第宅を賣却し、寛永前の昔に立歸り、再び町家共を建並べ、商廬を開き、町名をば大手町と稱せり。舊藩中は此の地を大手先或は大手口など、呼べるに依り、元祿六年士帳に、前田駿河守・津田支蕃等の第宅所付を大手口と記載せり。

前田對馬守舊邸

年亥五月九日曉金澤河原町後より出火、風烈しく大火に成り、河原町・堅町・石浦町・南町・堤町・尾張町・新町・寺町・大鑊屋町より田井口へ押移り、淺野川人持下屋敷悉く焼失

三壺記に、慶長七年金澤城内天守に雷落ち、焰硝藏へ火入りたる時、前田美作の屋敷の外なる西方寺の屋根へ死人落ちたるよし見たり。按ずるに、美作は二代美作直知なり。